



具志川高等学校男子ソフトボール部

部誌訪問

第6回



取材 島袋舞子 写真 池田枝里子

沖縄県立具志川高等学校
沖縄県うるま市喜仲3丁目21-1

監督	渡口竜次
主将	徳本陽
部員数	20名
マネージャー	2名

一点を守りきるチーム

朝方に降った雨もあがり、夏の日差しが照りつけ、絶好のソフトボール日和となった日曜日。

嘉手納兼久海浜公園多目的グラウンドにて、読谷高校と具志川高校の練習試合が行われた。グラウンドに到着すると、ハキハキとしたあいさつで迎え入れてくれた。

具志川高等学校男子ソフトボール部は、1年生4名、2年生9名、3年生5名、マネージャー2名の計20名で活動している。

過去には県大会優勝、2度の九州大会優勝、全国選抜大会出場、2度のインターハイ出場など、ソフトボールにおいて伝統ある学校だ。

監督は今年の4月に就任した渡口竜次監督である。渡口監督自身、具志川高校の出身で、エースピッチャーとして活躍した。

卒業後は、国際武道大学に進学し、インカレにおいて3位に輝いた経歴の持ち主である。今年3月まで読谷高校を指導していた。

チームの特徴を「ずば抜けて上手い人は居ないけれど、全員で

一点を守りきるチームです。」と語るのには、具志川高校男子ソフトボール部をまとめる主将の徳本陽選手（ポジションはキャッチャー）である。試合中、上手くピッチャーをリードし、また攻撃の場面では、人一倍大きな声で仲間を応援していた。

同部の選手たちの挨拶は素晴らしかった。選手と話をしたり、プレーを見ているなかで、挨拶を含む礼儀正しさが随所に表れていた。

生活態度から

どんなにソフトボールが強くなっても、日常の態度が悪ければ学校、保護者、地域の皆様からの協力や応援を得る事はできないし、結果を残しても評価されるのは厳しい。そのため、ソフトボール以上に生活面、特にあいさつを常に意識していると語る渡口監督。

授業態度が悪い場合は部活動を停止する場合もあるという徹底した生活態度の指導が、周囲から愛されるソフトボールチームになる事に繋がっている、ソフトボール自体の評価を上げる

高校時代のライバルであった読谷高校の監督として、母校を倒し幾度も優勝してきた。次は母校、具志川高校をどのようなチームに育てていくのだろうか。渡口竜次監督の新しい挑戦に注目だ。

ことにもなる。

ムードメーカー

具志川高校男子ソフトボール部のムードメーカーは、監督、主将ともに認める背番号9の賀数選手である。何事に対してもいつも笑顔で取り組み、練習や試合を問わず、いつもチームを盛り上げ明るくしている。

注目選手

具志川高校男子ソフトボール部の中でも注目の選手は、同部の一ノ章 天男セカンドの名護選手だ。大会に足を運ぶ際には、背番号1の名護選手の華麗なグラブさばきに注目である。

インターハイに向けて

主将である徳本選手に、インターハイに向けての目標を尋ねると、「チームを一つにまとめ、出来るだけ長く、みんなとソフトボールがしたい」と語った。目標は2年ぶり3度目の県制覇だ。

具志川高校6期生として、同校ソフトボール部の礎を築いた渡口監督。母校に赴任して、やはり勝たせたいと語る。まずは1勝、目の前のをしっかりとこなし、上を目指したいとインターハイに向けての抱負を語った。

高校時代のライバルであった読谷高校の監督として、母校を倒し幾度も優勝してきた。次は母校、具志川高校をどのようなチームに育てていくのだろうか。渡口竜次監督の新しい挑戦に注目だ。

3800名が学んだ
伝説のピッチング指導法
<http://bit.ly/h6NzXk>

田中大鉄の勝利の方程式
一点に競り勝つチーム作り
<http://bit.ly/hmrqrI>

具志川高校フォトギャラリー



■ エースピッチャー



■ 具志川高校ナイン



■ 試合後のダウン(下)
■ 主将の徳本陽選手(左)



■ 具志川高校の攻撃



■ 攻撃前の円陣

選手から見た
渡口監督

練習中や試合中
において、いい雰
囲気や緊張感を
作ってくれる。



■ 監督の渡口竜次先生